新聞で学ぶ故事成語
～伝統的な言語文化における新聞活用が過去と現在をつなぐ～

指定校２年次　飯田市立竜峡中学校　　成田 浩和

１　本校の新聞活用（ＮＩＥ）の現状
（１）１年次からの継続

本校のＮＩＥの状況を見ると，１年生の「農業体験学習新聞」「宿泊学習新聞」，２年生の「登山新聞」「職場体験学習新聞」が主な活動である。ほかには，地域の有名人や高校進学情報などの新聞記事を紹介するコーナーがある。授業では国語科で意見文を書く際，気になる社会問題を見つけるために新聞を活用したり，社会科で時事ネタ（自己決定権）を扱った際に，２社の記事を読み比べて自分の考えを構築したりした。また，道徳の時間に考えを広げるための参考資料として記事を扱った。

指定校１年次には社会科の授業「労働をめぐる問題」で新聞を扱った授業を展開し，新聞を手掛かりに，世の中の出来事を見つめ，自ら問題や課題をもって対応する力を育んだ。

（２）１年次の成果

・記事の中に出てきている具体的な“人”や“声”，それらから思いを読み取る姿があった。
・授業での新聞の読み取りはよくできており，教師の意図することは出来ていた。ラインマーカーを使って必要な個所に印をしていたことは読み取り方の基礎が身についている。
・時事ネタの活用はとても有効である。最近の記事で授業を構成したことは，教材として旬であり，貴重である。
・自分の考えを出す時，記事に触れ，事象に対する見方や考え方を広げることが大切である。

（３）１年次の課題

・新聞は素材であり，それを教材化していくことが重要である。
・普段の授業でどれくらい活用できるかが大切である。授業者は『新聞を使って何かやらないと…』ではなく，『この単元（領域，主題など）で，この記事は使えそうだ』『新聞を読んでいたらこういう記事があったので，こういう意図で，こういう場面で使ってみた。結果，こうだった』という積み重ねをしていきたい。
・日頃の実践を集め，使えそうな記事を出し合うなど全校体制での研究をし，多くの分野でＮＩＥの実践をまとめていきたい。
・どの領域，教科で実施するにしても，学習の根幹の部分（該当箇所に線を引くなど資料を効果的に読み取ること，自分の考えを学習カードにきちんと記入できることなど）は普段の授業で培っておかなくてはいけない部分である。

２　実践のねらい（育てたい力）

（１）新聞を手掛かりに，生徒が世の中の出来事を見つめ，自ら問題や課題を持って対応する力（思考力，判断力，表現力）を育てていきたい。
（２）新聞記事を活用することで，読解力の向上を図る。読解力とは単に読み解く力ではなく，「情報を読み取って，自ら考えて判断し，発信する総合的な能力」ととらえており，将来現れる課題に対応できるよう，育んでおきたい力である。

（３）新聞には「社会の今」が載っているため，教科書で扱われている内容を補足する教材として新鮮で効果がある。それを授業に活用することで，生徒が最新の情報に触れながら，社会的事象への理解を深め，人間の心に関心を持つ。

３　研究の概要

（１）新聞に対する生徒の意識

生徒にとって新聞とはどのような存在か。アンケートによると『新聞はいろんな情報を伝えてくれる』『新聞は人々を紹介して、その考えに触れることで自分の考えを広げさせてくれる』という肯定的な捉えをしている。一方で『新聞は難しい言葉や漢字が載っている』『そこまでちゃんと読んだことがない』という意識も見られた。どのようなことが現在起こっているかを知る手段としては活用しているが，内容を深く読むという経験はほとんどしていないようである。生徒にとって新聞は身近なものであるが，機会がなければ読むことはないようである。

読みたいと思っている生徒にとって,授業で新聞活用を仕組むことはどのような形であれ,意欲的に取り組んだり知識を広げたりすることにつながると考える。

（２）古典作品で新聞を扱う意義（教材化の視点）

古典学習は生徒の意欲が低下する傾向にある。今を生きる生徒にとって，過去を溯ることは難しく，古典というとどうしても遠い存在のように感じてしまう。意欲を高めるためには現実味が必要である。新聞記事には「圧巻」や「切磋琢磨」など故事成語が多く使われている。生徒にとって身近な存在である新聞に古典学習で学ぶ故事成語があることに気づけば,遠い存在である古典をより身近に感じてくれるのではないかと考えた。新聞が過去と現在の橋渡しになり，古典作品が現代の生活の中にも生きていることを実感させ，意欲を高めてくれることを期待し，教材化をした。

（３）国語科における新学習指導要領とＮＩＥ

１年「必要な情報を集める方法として新聞から探して読み，読む目的や対象によって読み方が変わることを理解させる」

２年「新聞やインターネット，学校図書館などの情報手段を活用し，その情報を比較させる」

３年「論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読ませる」

（４）公開授業

①実施単元に関わって

〈実践授業〉国語科・１年Ａ組（男子１５名　女子２０名　計３５名）授業者 成田浩和

単元名　「古から今に生きる言葉たちを探ろう～故事成語より～」

１年Ａ組の生徒は,授業への意欲が高く,目標に対して一生懸命に取り組むことができる。全体の場で発言をしたり友達とかかわったりすることに抵抗のない生徒が多く，明るく学習に向かう姿が見られる。ペア学習やグループ学習でも友達の話を聞いて自分の考えを広げたり，深めたりしている。

新聞にかかわる経験としては，国語や道徳の時間に「信濃毎日新聞学習シート」を学習内容の理解のために活用してきた。その際，新聞の大事な部分に下線を引いたり，友達と解釈

を比較したりする活動をした。また，農業体験学習や宿泊学習のまとめとして，新聞を作る活動にも取り組んできた。

国語の授業の中では，一学期に「いろは歌」，二学期に「蓬莱の玉の枝－竹取物語から」と古典作品を読んできた。文語（歴史的仮名遣い）と口語（現代仮名遣い）の言葉遣いの違いや言葉が変化してきたことを理解し，リズムを味わいながら古典の文章に読み慣れてきた。しかし，生徒にとって古典作品は現代の自分たちの生活とかけ離れ，なかなかイメージを持って学習することが難しい。自然と興味・関心も薄れ，知識重視の学習になりがちである。

本単元は，故事成語を扱った内容である。中国の古典に由来する言葉が，今も生活の中に生き続けていることを知り，漢文独特の言い回しに読み慣れていく内容である。「白文」→「訓読文」→「書き下し文」という流れを理解するとともに内容を読み取っていく。また，辞書や資料を用いて，いろいろな故事成語の由来や意味を調べ，自分の体験とつなげて体験文を書いていく単元である。

本単元の新聞活用ポイントは

ア　新聞記事から故事成語を探す。

イ　新聞記事に使われている故事成語の使われ方や意味を考える。

ウ　新聞記事に出てくる故事成語を参考にし，体験文を書く。

新聞は現代を生きる生徒にとって身近な存在であり，過去と現在をつなげる可能性を持っている。古典作品を扱った新聞記事を活用することで，生徒は古典作品を身近なものに感じ，古典の世界に興味や関心をもってくれるのではないかと考えた。

現在まで語り継がれ，読み継がれてきたものをより身近に感じてくれることを願い，本単元を設定した。

②単元の展開

学習問題・学習活動	指導	時間	資料・評価
単元を貫く言語活動「故事成語を使って体験文を書こう」			
・「矛盾」の文章を読み，意味や成り立ちを理解しよう。	・「矛盾」の教材文を扱い，意味や成り立ちをおさえる。 ・歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを知り，古典特有のリズムを味わわせる。 ・故事成語とは「故の事柄から成り立った語」とおさえる。	1	・学習カード Ａ－ア Ｂ－ウ Ｅ－ア
・新聞記事から故事成語を見つけ出し，成り立ちや意味を調べたり，新聞での使われ方を考えたりしよう。	・故事成語が載った新聞記事を用意し，故事成語を見つけさせる。 ・見つけ出した故事成語の成り立ちや意味を資料集や辞書を使って調べさせる。 ・新聞での使われ方を考えさせる。	1本時	・新聞資料 ・学習カード Ｃ－オ Ｄ－カ
・前時調べた故事成語の体験文を書き，成り立ちや意味と合わせて発表し，友達と交流しよう。	・体験文を書かせる。 ・友達の発表聞き，新たに知ることのできた内容をカードに記入する。	1	・学習カード Ｅ－イ

③本時について

本時の主眼

故事成語「矛盾」の成り立ちや意味を理解した生徒が，別の故事成語を新聞から見つけ出し，その成り立ちや意味を調べる場面で，故事成語が記事の中でどのような意味で使われているか考えたり，ペアで話し合って全体で交流したりすることを通して，新聞での使われ方を理解し，故事成語が今も身近な生活の中で使われていることがわかる。

本時の位置　（全３時間中の第２時）

前時：「矛盾」の文章を読み，仮名遣いの違いを知り，成り立ちや意味を理解した。

次時：故事成語の体験文を書き，意味や成り立ちと合わせて発表し合う。

指導上の留意点

・新聞記事は生徒にとって身近な話題で，読みやすいテーマのものを選ぶ。

・となりのペアと同じ記事を配布する。

④公開授業記録【平成２６年１１月１１日（火）　実施】

	教師の発問・支援等	生徒の反応
導入	昨日から新しいところに入りました。 前回どんなことやりましたっけ？ 矛盾は故事成語でしたね。古の事がらから成り立っている言葉。 矛盾の成り立ちを覚えていますか。 今は「つじつまが合わない」という意味で使われていることをＫ・Ｔ君が見つけてくれましたね。 前回の最後に自己評価カードを書いてもらいましたね。 Ｙさんがこんなことを言っています。 『故事成語がどんなところに使われているか調べてみたいです。』 故事成語ってどんなところで使われているかって考えたことありますか。 どんなところで使われているか，見つけてきました。 **新聞を提示**	Ｋ・Ｔ児　今に生きる言葉です。 Ｆ・Ｈ児　矛盾をやりました。 Ｍ・Ｈ児　どんなものでもつき通すことのできない盾とどんなものもつき通せる矛を売る商人がいて，ある人がその矛でその盾を突いたらどうなるかと聞いたら，商人は答えることができなかったという故事から成り立った言葉です。 「…」 生徒たちは黒板を見て，故事成語を探す。 「矛盾」を見つける。

新聞を使って故事成語を見つけていきたいと思います。ただ見つけるだけじゃなく，新聞の中でどんな意味があるんだろうって，意味まで考えていけたらいいなと思います。
ちなみにこの新聞で矛盾はどんな意味で使われているかというと「南峰は登山禁止なのに北峰は登山可能，同じ山なのにつじつまが合わない」という意味で矛盾が使われていました。

【今日の学習】　新聞から故事成語を見つけ，成り立ちや意味を調べ，どんな意味で使われているか考えよう。

これは最近の**新聞**です。この記事の中にも故事成語が使われています。Ｍ・Ｋ君わかりますか。阿部知事が「断腸の思い」なんていうふうに言っているんですね。
これからみんなにも見つけてもらいます。

	見つけて調べていきたいんですけど，意味や成り立ちはどんなふうに調べればいいですか。Ｍ・Ｔ君。 学習カード配布と**新聞配布**	国語資料集を使います。
展開	 さて，だんだんと終わった人が増えてきました。周りの様子が気になっている人もいます。隣の人が同じ記事を使っています。「こんな意味で使われているんじゃないか」というところを見合ってみましょう。後ろの人とも同じなので話してみよう。 全体で共有したいなと思います。今日自分はこういう故事成語に出会って，こういう意味でこういう成り立ちだった，新聞ではこんなふうに使われていたというのをみんなで共有したいと思います。 **新聞配布**	Ｍ・Ｍ児　新聞記事をながめる Ｓ・Ｍ児　手で記事の内容を追う。 Ｍ・Ｍ児，Ｓ・Ｍ児　資料集を広げる。 Ｓ・Ｍ児　学習カードに「切磋琢磨」を記入する。 Ｈ・Ｈ児　学習カードに「背水の陣」を記入し，資料集を見ながら意味と成り立ちを記入する。 全員が新聞を見て故事成語を探し，資料集で確認をする。（約２０分） Ｓ・Ｍ児　Ｍ・Ｔ児の新聞での使われ方を見て，『そういうことか。』 Ｆ・Ｙ児とＹ・Ｋ児が見合う。 Ｋ・Ｔ児は隣の人の考えを聞いて，書き込む。 Ｋ・Ｔ児とＨ・Ｈ児は学習カードを交換する。 Ｍ・Ｔ児　自分の考えを近くの人たちに伝える。 Ｉ・Ａ児　自分の考えを伝え，隣のＹ・Ｋ児の意見を聞く。 Ｈ・Ｋ児　僕が調べた言葉は登竜門です。成り立ちは黄河の急流で～ここを上りきれた鯉は竜になれるという伝説から。意味は立身出世のための関門。新聞では「競技に出ることが一人前の大工になるための関門になる」という意味で使われているんじゃないかな。 Ｈ・Ｓ児　登竜門です。新聞では「競技に出て技を磨き、一人前の大工になるための立ち向かって頑張っていく関門」という意味で使われていると思います。

	 Ｓさんは他人よりも優れている，Ｈ君はものすごく強い，違う記事で同じ言葉，同じような意味の捉え方をしていますね。	Ｉ・Ｓ児　私が調べた言葉は圧巻です。成り立ちは昔，中国の官吏登用試験で～ほかの巻を圧したことから。意味は書物などで最も優れたもの。新聞での使われ方は「他の人よりもとても上手とか，他の物とは比べられないくらい圧倒的だ」というような意味だと思う。 Ｆ・Ｈ児　圧巻です。見出しは「吉田新階級でも圧巻Ｖ」でした。「ものすごく強い人やすごいことをした人」に使うかな。
終末	自己評価カードを記入しましょう。 発表してもらいましょう。 どのような意味で使われているか考えることができましたね。 身近な新聞にも昔の言葉が多く使われていることがわかりました。	Ｈ・Ｋ児　新聞の中にも故事成語が使われていたことに驚きました。 Ｈ・Ｈ児　身近な新聞にも故事成語がたくさん使われていて驚きました。調べた内容と合っていました。 Ｓ・Ｍ児　切磋琢磨がどんな意味のものかがわかった。圧巻が故事成語だとは思わなかったのでびっくりしました。まだ意味やどんな時に使うかわからないものが多いので調べてみたいです。

４　研究のまとめ

（１）研究会でのご示唆から

・故事成語の学習に新聞を用いたことは，故事成語を生徒の身近に引き寄せ，現在もそれらが身の回りで使われていることを生徒が実感するのに有効だった。
・故事成語が新聞の中で「どんな意味で使われているか」考えることは生徒にとって適切な課題だったと思う一方で難しい生徒もいた。
・隣同士で同じ新聞記事を持たせたことは，ペアでの学習を深めるのに有効であった。ペア学習後に記事を見返し，記事に立ち返る学びの姿も見られた。
・全員に同じ新聞記事を資料として配付したことは，個人やペアでとらえた故事成語を全体に広めるうえで有効であった。
・興味や関心のありそうな記事（スポーツや地域）を取り上げていてよかった。内容をつかむまでの時間の確保がきちんとされていた。
・故事成語の意味と新聞で使われる意味の違い（変わっていること）に気づく姿が見られた。
・新聞が身近な存在とは言い切れないのではないか。一流だと特別なのでは。
・新聞記事をかみ砕いて考える姿（読み取り），自分の言葉で説明する姿（判断・表現），違う意味で捉える姿，記事内容をつかめない姿などあったが，モデルを示すことが大切。

（２）アドバイザーから

・見出しの働きを理解したい。
・新聞は手段であり，目的ではないことを意識しながら新聞活用を学力向上につなげたい。
・新聞が結びつけるものを考えていきたい。生徒が感じ取ったものを大切にしていきたい。
・新聞と仲良くなるために，たくさん新聞を読んでほしい。今日の授業をきっかけの一つにして新聞を読むことを継続していきたい。
・写真や記事，資料が心に落ちるような新聞提示を心がけたい。
・これからの学力の一つとして違いに気づく力が挙げられる。自分で判断していく力を大切にしていきたい。

（３）授業者の考察・研究の成果

・ 授業を構築するにあたり，新聞は生徒にとって遠い存在である古典作品を身近なものに感じさせてくれるのではないかという希望的推測はもう少し吟味が必要であった。生徒にとって新聞が「身近」と考えていた私にとって授業での生徒の姿は意外なものであった。新聞を生徒に近づける時間を確保する必要性を感じた。
・ 新聞は古典（故事成語）が現在の生活にも使われていることを感じさせる手立てになったことは成果である。単元の最後の感想で『故事成語が自分たちの身の回りでも使われていることがわかり、興味を持てた』という感想が多く並んだ。新聞は過去と現在をつなぎ、古典作品が現在の生活にもつながっているということを感じさせてくれる教材であった。
・ 興味、関心の面でも新聞は大変有効であることがわかった。
・ 国語科としての読み取る力や活用力を高める点でも新聞は有効であった。

５　残された課題と今後の見通し

・ 今回最も感じたことは継続することの大切さである。継続することで新聞が身近な存在になり、生徒にとってとりかかりやすいものになると感じた。１年間を通して継続していく必要がある。
・ 新聞を精選して提示していくことが大切である。年間を見通して単元をしぼって新聞活用をしていきたい。
・ 国語科として、今年度は読み取りに生かす新聞活用を行ったが、来年度は「判断力・表現力」を養うための新聞活用を追究していきたい。